

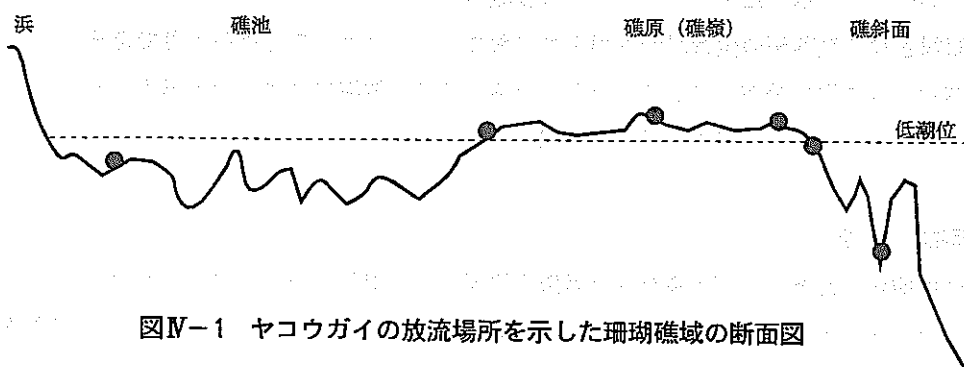
第IV章 資源添加技術開発

1. 放流試験

沖縄県では本事業を1993年から実施しているが、種苗の放流は1994年に開始した。現在までの放流実績を表IV-1に示した。1996年は中間育成中の斃死により放流をしなかったが、1994、1995、1997の3年で、計12回、26,000個体を放流している。1994、1995の両年は放流環境・放流サイズを検討するために、放流環境やサイズを変えて放流した。図IV-1は、沖縄で普通に見られる、珊瑚礁地形の断面図である。浜から沖に向かってまず水深1~2m程度の礁池がある。ここは、砂地でパッチ状に珊瑚が生育している。その沖側に干潮時に干出する礁原が広がる。ここは、珊瑚由来の岩盤か、礫で形成されている。さらにその沖は、礁斜面上空から見ると尾根と谷のような構造の複雑な地形をしている。1994、1995年には図IV-1中の黒丸で示した様な環境に放流している。また1994年には殻高70~90mmの大型のものを放流しているが、これは、種苗生産したものを3~6年飼育したものである。この大型群は、2年経過した1996年以降漁獲サイズに達し再捕されている。最初の2年(1994、1995)は、放流直後の減耗や移動等を重点的に調べるために、試験場近くの石垣島川平での放流を多く行った。両年の放流試験結果や他の海域でのヤコウガイ稚貝の生息環境そして食害試験結果から、1997年は30mm種苗を礁斜面上に放流した。また放流の目的を放流後の初期減耗や放流環境を調べることから、漁業者の再捕により放流効果を調べることに移行したため、放流場所を漁場の近くに変えた。

表IV-1 ヤコウガイ放流実績

放流群名	放流日	場 所	放流環境の特徴	放流サイズ (平均殻高mm)	放流数	標 識
94R-1	6/14/94	石垣島川平	礁池~礁縁部、潮間帯~4m	25.57	906	アロンアルファ(赤、青)
94R-2	6/30/94	石垣島白保沖、竹富島南沖	礁斜面、7~20m	72.90	247	印字テープ(番号)
94R-3	10/5/94	石垣島川平	礁原外縁部~礁斜面、潮間帯9m	30	4,811	アロンアルファ(赤、青)
94R-4	12/8/94	石垣島白保沖	礁斜面、7~14m	98	58	印字テープ(番号)
計(1994年度)					6,022	
95R-1	3/7/95	石垣島白保沖	礁斜面、7~14m	25.29	3,491	アロンアルファ(赤)、ビーズ(赤)
95R-2	7/12/95	石垣島川平	礁原、潮間帯	29.47	1,924	着色ポリライト(白、赤、緑、黄)
95R-3	11/15/95	石垣島白保	礁原、潮間帯	32	5,728	着色ポリライト(黄)
96R-1	3/21/96	石垣島川平	礁池内の独立したパッチリーフ、1~2m	23.27	1,396	着色ポリライト(金、青)
計(1995年度)					12,539	
97R-1	7/29/97	竹富島南沖	礁斜面、5~10m	29	1,019	着色ポリライト(青)
97R-2	9/9/97	黒島南沖	礁斜面、3~10m	31	2,060	着色ポリライト(アイボリー)
97R-3	12/12/97	石垣島白保沖	礁斜面、5~10m	26	2,152	着色ポリライト(ライトグリーン)
98R-1	3/12/98	竹富島南沖	礁斜面、2~7m	24	2,137	着色ポリライト(オレンジ)
計(1997年度)					7,368	



図IV-1 ヤコウガイの放流場所を示した珊瑚礁域の断面図